



ARTIST
SUPPORT

【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちをお寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。
寄せられたご支援は、アーティストの様々な活動に幅広く使っていただいております。

「人のいるところには夢がある」創業48年来のジャパン・アーツの理念です。
どんな時代においても、音楽・芸術から生まれる感動は、
人々に夢・希望・生きる力を与えてくれます。



アーティストサポートの詳細は
こちらをご覧ください。

これまでの活動レポートは、ジャパン・アーツのホーム・ページに
掲載しておりますので、どうぞご覧ください。
今年度も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い致します。

2024年度ご支援いただいた皆様

<2024年度 年間サポート>

上原啓子 上村憲裕 M.U K.O S.O 小田島容子 片山由美子 H.K K.K
栗田美知子 新貝康司 M.S M.T R.T A.D
トゥルーラブ真智子 トゥルーラブ真凜 K.N 兒子弥生 S.N M.H 平山美由紀
藤野盾臣 松尾芳樹 真野美千代 J.M M.M (株)青林堂
(匿名希望 12名)

<2024年 ウィーン少年合唱団 オフタイム・サポート>

井口和美 K.K Rimiko M.H M.M 真野美千代 水足久美子
水足秀一郎 ロロコミ・リリコミ
(匿名希望 11名)

<2024年 ウィーン少年合唱団 ツアー・サポート>

井口和美 T.O K.K Rimiko M.T 平山美由紀 細沼康子 M.M
真野美千代 村瀬治男 ロロコミ・リリコミ
(匿名希望 10名)

2024年8月20日現在 敬称略



ご支援についての詳しい内容は、どうぞ下記へお問い合わせください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 Tel.03-3499-7720 (平日11:00~17:00 年末年始を除く)

TOMO HARU *Ushida*

牛田智大 協奏曲の夕べ

モーツァルト&シューマンの心を謳う

Concertos, Tomoharu Ushida plays Mozart and Schumann

指揮: 飯森範親
Norichika Iimori, Conductor

ピアノ: 牛田智大
Tomoharu Ushida, Piano

管弦楽: 東京フィルハーモニー交響楽団
Tokyo Philharmonic Orchestra

2024年9月3日(火) 19:00

東京オペラシティ コンサートホール

7:00 p.m., Tuesday, September 3, 2024 at Tokyo Opera City Concert Hall

主催: ジャパン・アーツ

文化庁 劇場・音楽堂等における
子供舞台芸術鑑賞体験支援事業対象公演



モーツァルト: 交響曲 第9番 ハ長調 K.73

Mozart: Symphony No.9 in C Major, K.73

第1楽章 アレグロ	1st Mov.: Allegro
第2楽章 アンダンテ	2nd Mov.: Andante
第3楽章 メヌエット	3rd Mov.: Menuetto
第4楽章 モルト・アレグロ	4th Mov.: Molto allegro

モーツァルト: ピアノ協奏曲 第20番 ニ短調 K.466 (ピアノ: 牛田智大)

Mozart: Piano concerto No.20 in D Minor, K.466 [Piano: Tomoharu Ushida]

第1楽章 アレグロ	1st Mov.: Allegro
第2楽章 ロマンズ	2nd Mov.: Romance
第3楽章 アレグロ・アッサイ	3rd Mov.: Allegro assai

* * * * *

シューマン: ピアノ協奏曲 イ短調 Op.54 (ピアノ: 牛田智大)

Schumann: Piano Concerto in A Minor, Op.54 [Piano: Tomoharu Ushida]

第1楽章 アレグロ・アフエットウオーソ	1st Mov.: Allegro affettuoso
第2楽章 インテルメッツ、アンダンテ・グラツィオーソ	2nd Mov.: Intermezzo. Andante grazioso
第3楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ	3rd Mov.: Allegro vivace

寺西基之 Motoyuki Teranishi
(音楽評論家)

モーツァルト：交響曲 第9番 ハ長調 K.73

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-91)は8歳の時から交響曲を書いているが、このハ長調の曲は13歳の時の1769年の末頃に作曲されたと推定されている。少年モーツァルトの才気を窺わせた作品で、活力に満ちたアレグロ、優美なアンダンテ、堂々たるメヌエット、 Rond形式のガヴォット(もしくはコントルダンス)による生氣あるフィナーレという4楽章からなる。

モーツァルト：ピアノ協奏曲 第20番 ニ短調 K.466

モーツァルトは1781年にウィーンに移住した。彼のウィーンでの名声を特に高めたのは自作自演のピアノ協奏曲で、当時の聴衆の好むきらびやかな作風のうちに豊かな音楽性を生かした数々のピアノ協奏曲は大きな人気を呼ぶ。しかし1785年のこのニ短調協奏曲では当時の聴衆が協奏曲に求めた社交的絢爛さを超え、短調の暗いデモーニッシュなドラマ性、ピアノと管弦楽の交響曲風の緊密な関係など、激しいパトスの表現に重点を置くという大胆な姿勢が示されている。

第1楽章(アレグロ)は協奏風ソナタ形式だが、不気味なシンコペーションの開始からして異様な緊張感に満ち、劇的な展開が繰り返される。第2楽章(ロマンス)は

穏やかさのうちに深い情緒を湛えた緩徐楽章だが、中間部では激しい感情を爆発させる。第3楽章(アレグロ・アッサイ)は不安に駆られるように運ばれる短調のフィナーレ。しかし最後は長調の明るさのうちに輝かしく閉じられる。

シューマン：ピアノ協奏曲 イ短調 Op. 54

ドイツ・ロマン派を代表するロベルト・シューマン(1810-56)は若い時期に専らピアノ独奏曲のジャンルで自らの作風を追求した。そして愛するクララとの結婚にこぎつけた1840年、一転して歌曲を集中的に作曲した彼は、翌1841年に今度は管弦楽の作品に挑戦することとなる。この年に書かれた管弦楽作品としては交響曲の第1番「春」や第4番(第1稿)などがあるが、ピアノと管弦楽のための単一楽章構成の「幻想曲」もこの年の重要な所産である。この「幻想曲」は同年クララのピアノで初演されたが、シューマンは4年後の1845年にこれを改訂し、さらに2つの楽章を付け加えた。こうしてピアノ協奏曲イ短調が成立した。ピアニスティックな技巧とシンフォニックな有機性を融合させつつ、シューマン特有の幻想的なロマン性を打ち出した傑作である。

第1楽章(アレグロ・アフエットウオーソ)は先述のように当初単独で「幻想曲」として書かれた楽章で、強烈な管弦楽の和音にピアノが激しいソロで応えて始まる自由なソナタ形式。第2楽章(インテルメッツ、アンダンテ・グラツィオーソ)はインテルメッツの題のとおり間奏的な楽章で、ピアノと管弦楽とが対話風に進み、中間部ではチェロが美しい旋律を歌う。そのまま続く第3楽章(アレグロ・ヴィヴァーチェ)はイ長調のソナタ形式のフィナーレで、独奏と管弦楽がシンフォニックに絡みつつ、鮮やかな展開を繰り返す。



ともはる
牛田 智大(ピアノ)

Tomoharu Ushida, Piano

2018年第10回浜松国際ピアノコンクールにて第2位、併せてワルシャワ市長賞、聴衆賞を受賞。2019年第29回出光音楽賞受賞。

2012年、ユニバーサル ミュージックよりCDデビュー。これまでに、ベスト盤を含む計9枚のCDをリリース。2015年にリリースした「愛の喜び」以降、続けてレコード芸術特選盤に選ばれている。

2014年からは海外オーケストラの日本公演のソリストも多く務めるほか、全国各地の演奏会で活躍。その音楽性を高く評価され、2019年にはプレトニョフ指揮ロシア・ナショナル管モスクワ公演や、ワルシャワ、ブリュッセルでのリサイタルに招かれた。

2019年に20歳を迎え、これを記念し2020年8月にサントリーホールでソロリサイタルを行い大成功を収めた。また2022年3月、デビュー10周年を迎えて記念リサイタルを開催。2024年1月には、トマーシュ・ブラウネル指揮プラハ交響楽団日本公演のソリストとして4公演に出演。人気実力ともに若手を代表するピアニストの一人として注目を集めている。

ロームミュージックファンデーション2023年度奨学生。江副記念リクルート財団第53回奨学生。

牛田智大～今後のコンサート～

アフタヌーン・コンサート・シリーズ2024-2025

六重奏で聴くショパン・ピアノ協奏曲

～牛田智大 室内楽シリーズ Vol.3～

出演：牛田智大(ピアノ) カルテット・アマービレ [篠原悠那(ヴァイオリン)、北田千尋(ヴァイオリン)、中恵菜(ヴィオラ)、笹沼樹(チェロ)]
加藤雄太(コントラバス)

2024年10月22日(火) 東京オペラシティ コンサートホール

ショパン: ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 Op.11

ショパン: ピアノ協奏曲 第2番 ヘ短調 Op.21

～ケヴィン・ケナー&クシシュトフ・ドンベクによる六重奏版～

2025年1月19日(日) 横浜みなとみらいホール

ショパン: アンダンテ・スピアノートと華麗なる大ポロネーズ Op.22

ショパン: バラード第1番～第4番 他

牛田智大 ピアノ・リサイタル



飯森範親(指揮)

Norichika Iimori, Conductor

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリン、ミュンヘンで研鑽を積み、これまでにフランクフルト放送響、ケルン放送響、チェコ・フィル、モスクワ放送響等に客演。2001年、ドイツ・ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団音楽総監督(GMD)に着任し、ベートーヴェンの交響曲全集を録音するとともに、日本ツアーを成功に導いた。

国内では1994年以来、東京交響楽団と密接な関係を続け、専属指揮者、正指揮者、特別客演指揮者を歴任。

2003年、NHK交響楽団定期演奏会にマーラーの交響曲第1番でデビュー。2006年度芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

また、オペラでも高い評価を得ており、2024年は新国立劇場「コジ・ファン・トゥッテ」に出演、さらに11月には藤原歌劇団創立90周年記念公演「ピーア・デ・トロメイ」への出演が予定されている。

現在、パシフィックフィルハーモニア東京音楽監督、日本センチュリー交響楽団首席指揮者、群馬交響楽団常任指揮者、山形交響楽団桂冠指揮者、いずみシンフォニエック大阪常任指揮者、東京俊成ウインドオーケストラ首席客演指揮者、中部フィルハーモニー交響楽団首席客演指揮者。

オフィシャル・ホームページ <https://iimori-norichika.com/>

東京フィルハーモニー交響楽団

Tokyo Philharmonic Orchestra



1911年創立、日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン・ミョンファン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフ。自主公演の他、新国立劇場他でのオペラ・バレエ演奏、NHK他における放送演奏で高水準の演奏活動を展開。海外公演

も積極的に行い、高い注目を集める。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を締結。文京区、千葉市、軽井沢町、長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。